

KOMAZAWA × FUKUOKA

この日何度も見られたこの場面。駒大は13本ものコーナーキックを得たが、1度もゴールネットを揺らすことが出来なかった。右端は巻（撮影・岩田陽一）



第27回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント準決勝

駒澤大学0 (5PK4) 0福岡大学

遠いゴール、蒸し暑いピッチ… 明暗分けた気持ちの強さ

守護神牧野、PK戦
土壇場奇跡のセーブ

事実上の決勝戦とも言える筑波大との大一番をものにした駒大は、決勝への切符をめぐって九州の雄・福岡大と準決勝で激突した。

試合は序盤、100人以上の応援団が駆けつけた福岡大が支配。奈良崎のスビードを活かした突破、ユニバーシアード代表・田代のポストプレーで駒大ゴールへ襲いかかる。しかし、「今日のディフェンスラインは集中していてすこく良かった」（牧野）と言うように、最後の場面で福岡大に自由にプレーさせず得点を許さない。

こうなると次第に流れは駒大へ。19分、21分と中後が立て続けにゴールを狙えば、赤嶺もディフェンスラインの裏へ飛び出し、チャンスを作る。しかし、いずれも福岡大の粘り強いディフェンスの前にゴールを奪えない。前半は両チームディフェンスの健闘もあり、無得点で折り返した。

後半、先に仕掛けたのは駒大。2分、桑原が強烈なミドルシュート。しかし、惜しくもボールは右に外れる。その後も攻撃の手を休めない駒大だったが、フィニッシュの精度を欠き得点には至らない。するとベンチもたまたま前の試合で得点を決めた原と根本を投入し、勝負に出る。

その攻めの姿勢が実ったのか39分、フリーキックのこぼれ球を拾った鈴木がFW顔負けのすごいドリブル。たまたま相手はベナルティエリア内でファールを犯してしまい駒大はPKを獲得する。この絶好のチャンスにキッカーは主将の中田。だが思い切りよく放たれたシュートは相手GKの左手によって阻まれてしまった。「蹴る方向は決めていたんですけど、キーパーがドンビシヤで飛んできて……」（中田）と言うPK失敗は駒大に動揺を誘い、福岡大に勢いをもたらし、そしてついに試合は延長戦へ。

Vゴール方式の延長戦は、一瞬の気の緩みが命取りであるが、「暑い中であつと集中を切らさないのは大変。でも、今日はそれが出来た」（廣井）と言うように駒大は延長に入っても慎重な守りで相手に決定的なチャンス